

【別紙2】 銚子・銚子沖における毒ガス被災事例

日 付	場 所	概 要	資 料
昭和 26 年 4 月 2 日	銚子市	海岸で男性が鉄製のガスつばを拾い、自宅で解体中に 9 名が中毒し、4 名が失明。男性とその母親、男性の長男の 3 名が死亡し、6 名重症。	「朝日新聞」昭和 26 年 4 月 6 日 [13] 「朝日新聞」昭和 26 年 4 月 7 日 [14] 「朝日新聞」昭和 26 年 4 月 11 日 [15] 「千葉県における漁業補償」[2]
昭和 29 年 6 月 29 日	銚子沖	サルベージ会社(爆発物件等引揚業者)が作業中に 60kg イペリット爆弾 2 発を引き揚げて作業員 6 名が被災した	「毒ガス弾等調査資料」[16]
昭和 32 年 9 月 13 日	銚子沖 (一の島 灯台東北 東 15 マイ ル)	漁船の底引き網に鉄製セメント樽用容器(直径 10m、高さ 1.2m) 1 個を引き揚げ、直ちに海中に投げ捨てたが乗組員 9 名が全治 4 ヶ月の重症を負った。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」[5] 「銚子沖イペリット缶等引揚経過について」[8] 「千葉日報」昭和 32 年 9 月 15 日 [17]
昭和 33 年	銚子沖	網にかかったガス弾を船上で分解しようとして 17 名が中毒した。	「千葉日報」昭和 37 年 8 月 24 日 [18]
昭和 42 年 9 月 26 日	銚子沖 (一の島 灯台 NE15 マイル)	漁船がイペリットを発見し、5 名負傷。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」[5]
昭和 44 年 11 月	銚子沖	漁船 2 隻がイペリット缶を引き揚げて、うち 1 隻の乗組員が流涙がとまらなかった。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」[5]
昭和 45 年 1 月 17 日 (17~25)	銚子沖 (一の島 灯台北東 約 15 海 里)	漁船が底引網でビール樽のような缶を引揚げ、5 名が負傷。その後、3 隻の漁船もイペリットを引揚げ、15 名が負傷。	「銚子沖イペリットかん等緊急掃海事業報告書」[5] 「千葉県における漁業補償」[2] 「読売新聞」夕刊昭和 45 年 1 月 21 日 「千葉日報」昭和 45 年 1 月 23 日 「朝日新聞」昭和 45 年 2 月 5 日 「毎日新聞」昭和 45 年 2 月 5 日
昭和 45 年 1 月 25 日	銚子沖 (一の島 灯台北東 約 1 5 海 里)	沖合い底引き船が操業中にイペリットガス缶(つぼ型)が入網。乗組員 7 名が目の症状を訴え銚子市内の眼科で診察を受ける。4 4 年 1 1 月から漁船 7 隻、乗組員 3 0 人ほどが重軽傷の被害にあっている。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」[5]
昭和 45 年 3 月 3~11 日	銚子沖	銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民 8 名負傷。新聞報道では 9 名負傷とある。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」[5] 「朝日新聞」夕刊昭和 45 年 3 月 3 日 「毎日新聞」夕刊昭和 45 年 3 月 3 日 「毎日新聞」昭和 45 年 3 月 4 日 「千葉日報」昭和 45 年 3 月 4 日 「千葉日報」昭和 45 年 3 月 7 日 「千葉日報」昭和 45 年 3 月 1 0 日
昭和 45 年 9 月 16 日 ~10 月 2 日	銚子沖	銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民 7 名負傷。新聞報道では 8 名負傷とある。	「銚子沖イペリット缶等第二次緊急掃海事業報告書」[6] 「千葉日報」昭和 45 年 10 月 3 日
昭和 49 年 11 月 12 日	銚子漁港	銚子漁港岸壁拡張工事現場で、海底をさらって旧軍の砲弾探しを行っていた浚渫船が土砂とともにイペリット弾を引き上げ、1 名負傷。	「千葉日報」昭和 49 年 11 月 14 日 [20] 「朝日新聞」(京葉版)昭和 49 年 11 月 14 日 [21]
昭和 51 年 9 月 3 日	銚子沖 (犬吠崎 沖東北東 約 30km)	昭和 51 年 9 月 3 日、銚子市犬吠埼沖(利根川河口北東約 18~19 マイルの海域)で茨城県波崎町の漁業者が小型底引き船で操業中、網に付着したイペリット剤(ゼリー状の塊)に触れ、5 人が重軽傷を負った。	「朝日新聞」昭和 51 年 9 月 5 日 [22]
平成 14 年 3 月 26 日	茨城県鹿 島郡大洋 村汲上の 東 30km 沖	平成 14 年 3 月 26 日、茨城県鹿島郡大洋村汲上の東 30km 沖で操業中の漁船の網にイペリット缶が入網し、缶は曳航中に海底に落下したが、網に付着していたイペリット剤により 3 人が軽傷を負った。	「茨城県魚政課資料」[23]